レポート　母校の廃校に思う

ネットサーフィンしていたら、「校舎と別れ惜しむ、A小］ のタイトルが目にはいり、えっ！
母校の小学校が廃校になる。どうして？と思い記事を読んでみました。
「２０２２年度末で閉校するN県A小学校で、閉校記念式典が開かれた。９人の在校生をはじめ家族や卒業生、住民、かつて勤務した職員らが出席し、思い出を語りつつ、学校との別れを惜しんだ」とありました。
その理由は「令和３年度のA小学校の児童数は１２名ですが、令和４年度は９名の見込みとなっており、令和５年度にはさらに減少することが見込まれています。」と児童の減少によることで廃校になるとのことでした。
市街地の学校でも市町村の合併などにより統廃合がなされていますが、この学校は山村にあり、その地域の中心的学校です。周辺地域が合併をしたため、古い木造の校舎をコンクリートの校舎に建て替え合併による児童数の増加に対応した大きな校舎にしたのにも関わらず、ついに廃校になってしましました。
私が学んだ校舎は、小学校・中学校・高校と木造の造りで、そこで勉強をしました。それらの校舎の窓際の席で時には、山を見え、海が見え、グランドを見た記憶があります。
間取りは片側に廊下が通りそれに沿って矩形の教室が並んだワンパターンの配置になっていました。
あれから半世紀も経っていますが、MY子供たちが通った校舎もこの形式の校舎でした。私立学校の校舎はいろいろ工夫がなされ自由教育などの教室の在り方では隔離された矩形の教室ではなく仕切り壁が取り払われたオープンスタイルの教室も作られています。
公立の学校は文科省による規定で画一的な校舎となっています。四角四面の箱型の教室ではなく自由空間の教室でありたいと思います。
今回廃校にになる校舎は一般的なスタイルの校舎ですが、母校がなくなるのは、思い出も失しなわれるようで寂しい限りです。

当時の木造の校舎、

現在の校舎（google mapより）

2023.2.6　植木